



Ⅲ. 経営計画チャレンジV 2026-2030

前経営計画チャレンジV 2021-2025の総括

21

新経営計画チャレンジV 2026-2030

22

社員座談会：この道の「安全」の上に、「安心」「快適」という感動を

26

前経営計画チャレンジV 2021-2025の総括

経営方針	達成目標(2025年度までにめざす目標)		2021年度から2025年度までの5年間の主な成果	
		目 標	実 績	
1 安全性向上に 向けた不断の 取組みの深化	安全意識の 更なる醸成	グループ全体で安全意識を更に 深化させ、安全を最優先にあらゆる 事業を推進		「安全啓発館」での安全啓発研修をグループ全社員が受講（一巡） - 安全対話や安全に関する職場討議、安全行動指針の唱和などの継続 - 社外の有識者の意見を採り入れ、安全性向上の取組みの継続的な改善を図るため、「安全性向上有識者会議」を開催
2 高速道路の機能強化 と広くお客さまに 利用される高速道路 空間への進化	新規開通延長	2021年度から 2025年度までの 累計57km	2021年度から 2025年度までの 累計57km	- 新東名、名二環、東海環状道の新規開通 - 東海北陸道・新名神などの4車線化・6車線化の一部完了 - 刈谷スマートICなど9カ所のスマートIC整備 - 橋梁の耐震補強やリニューアルプロジェクトの着実な推進 - 車両滞留回避のための大雪時の対応強化 - 事故多発地点（41カ所）での集中的な対策の完了 - 名神 一宮JCT付近の付加車線設置など渋滞対策の推進 - 東海環状道、圏央道などの料金所でETC専用運用を開始 - 清水PAや双葉SAなど27カ所のSA・PAリニューアル - SA・PAや路外駐車場など（38カ所約1,370台）の大型車駐車マス増設 - 短時間限定駐車マスや予約駐車マスの実証実験 - 中継輸送拠点 コネクティア東名浜松西・静岡の整備 - 延べ139プランの企画割引（速旅ドライブプラン）を販売
	構造物の健全性	100%	100%	
	快適走行路面率	95%以上	96%	
	死傷事故率	4.6件/億台km以下 ※2019年度から10%低減 (2019:5.2件/億台km)	4.2件/億台km	
	逆走事故件数 [うち人身事故件数]	4[2]件以下 ※2019年度から50%低減 (2019:8件[4]件)	17[4]件	
	交通集中に起因する 渋滞損失時間	902.0万台・ 時間以下	1010.0万台・ 時間	
	企画割引販売件数	2022年度から 2025年度までの 累計53万1000件	2022年度から 2025年度までの 累計84万件	
	年間ご利用台数	7億4900万台以上	7億5900万台	
3 デジタル化や 脱炭素化などの 環境変化に適応した 新たな価値創造 への挑戦	i-MOVEMENT の推進	最先端の事業運営を実現し、 次世代の高速道路空間を創造		- 道路管制センターに異常事象対応業務を集約する「東京支社モデル検証」の開始 1拠点から複数料金所の遠隔監視・対応を行う「料金所集約化」の開始（5カ所10料金所・3SICを集約） - BIM/CIMの全面展開、遠隔臨場の導入（約8割の現場でウェアラブルカメラ等を用いた検査・立会を実施） - 新東名における路車協調実証実験、自動運転車優先レーンの実証実験 - 超高性能繊維補強セメント系複合材料、さびにくい凍結防止剤などの技術開発・導入 - 高速道路のノウハウを活用した技術製品やサービスの外販 - 米国における舗装健全度評価サービスの展開 - 賃貸住宅事業「NC STYLE」の展開 - 道路照明17,000灯のLED化 - EV急速充電器380口の整備 - 水素ステーションの設置
	i-Construction の推進	ICTの全面活用による建設生産 システム全体の生産性を向上		
	自動運転(レベル4) の実現	高速道路での完全自動運転(レベル4)の 実現のための路車間協調設備を構築		
	CO ₂ 削減量	高速道路ネットワークの整備を通じて、 一般道から高速道路への交通転換を図り、 CO ₂ 排出量削減に貢献		
		高速道路ネットワークの新規整備、 渋滞対策、設備の省エネルギー化 などによる2021年度から2025年度 までの累計削減量		
		16万t-CO ₂ 以上	14万t-CO ₂	
4 お客さまをはじめとする ステークホルダーの 期待に応え続けるための 経営基盤の強化	働きがいの向上 (社員意識調査値)	3.63点以上	3.68点	- 法定を上回る育児・介護に関する休業・休暇制度 - テレワーク勤務・時差出勤等の柔軟な勤務制度 - エリアを限定した勤務制度の拡大 - 健康経営®の推進 - 建設現場における週休2日の定着 - 猛暑日を考慮した工期設定 - グリーンボンド・ソーシャルボンドの発行など資金調達の多様化
	お客さま満足度	70.0点以上	69.0点	
	財務計画 (連結営業利益)	35億円以上	1億円	

新経営計画チャレンジV 2026-2030

2026年度から新しい経営計画チャレンジV(ファイブ)2026-2030がスタートしました。当社グループの普遍的社会的使命である「企業理念・私たちの役割」と、企業理念を実現するために社員一人ひとりが業務に向き合う際の行動指針である「私たちの基本姿勢」を基盤に、以下の6つの経営方針に基づく施策を推進することで、ステークホルダーの皆さまへ様々な価値をお届けします。

経営方針	主要施策	個別施策
1 安全性向上に向けた 不断の取組みの深化 2 安全・安心で 利便性・快適性の 高い高速道路空間の提供 3 お客さまや地域、 社会の課題に 応える新たな 価値創造	安全性向上への「5つの取組み方針」に基づく 不断の取組みの深化 ① 安全を最優先とする企業文化の醸成 ② 安全活動の推進 ③ 安全を支える人財の育成 ④ 道路構造物等の経年劣化や潜在的リスクに対応した 業務プロセスの継続的改善 ⑤ 安全性向上に向けた着実かつ効率的な事業の推進	■ 筐子トンネル天井板崩落事故の記憶と教訓の風化防止 ■ 一人ひとりの「安全を最優先とする意識」の向上 ■ 社内外の安全に関する情報の収集・共有・活用 ■ 安全を最優先に自ら考え行動する人財の育成 ■ 労働災害防止に向けた取組みの推進
	高速道路ネットワークの整備、機能強化・進化	■ 高速道路ネットワークの整備推進 ■ 4車線化・6車線化の整備推進 ■ スマートICの整備推進
	加速するインフラ老朽化に対する着実なメンテナンス	■ 健全性診断の優先度に基づく計画的な措置の推進 ■ 快適な走行路面の維持 ■ 予防保全型マネジメントの推進 ■ 大規模更新・大規模修繕の着実な推進 ■ 重量違反車両対策の推進
	激甚化・頻発化する自然災害への対応	■ 橋梁の耐震補強の推進 ■ グループ一体となった災害対応力の強化
	交通事故及び渋滞の低減	■ 重大事故減少に向けた事故対策の推進 ■ 逆走事故ゼロに向けた対策の強化 ■ 渋滞対策の推進
	利用しやすい柔軟な料金サービスの提供	■ ETC専用化の推進 ■ 混雑などに応じた柔軟な料金体系の実現
	休憩施設の快適性と利便性の向上	■ 駐車マス拡充などの混雑対策と利便性の高い 駐車サービスの実現 ■ 利用しやすいトイレ空間の提供 ■ 休憩施設の新規整備やリニューアルなどによる多様な サービスの実現
	レベル4自動運転の走行実現に向けたインフラの整備	■ レベル4自動運転(高速道路での完全自動運転)に 必要なインフラ支援設備の検証拡大
	高速道路が担う物流機能の高度化	■ 物流を支える中継輸送拠点の整備 ■ レベル4自動運転トラックの実装に必要な拠点の整備
	地域共創につながる連携強化とソリューションの提供	■ 交通結節点の整備及び結節点機能を高めるサービスの実現 ■ 地域の魅力や付加価値を高める地域共創事業の展開 ■ 地域間交流の促進につながるドライブプランの展開 ■ 地域インフラ維持管理支援などインフラソリューションの展開

経営方針	主要施策	個別施策
4 脱炭素化をは じめとする環境 保全への貢献 5 エンゲージ メントの向上	カーボンニュートラルに向けた道路脱炭素化の推進	■ 道路照明や建物照明のLED化 ■ 低炭素材料の導入拡大 ■ 道路関係車両の電動車化 ■ 再生可能エネルギーの導入拡大
	ネイチャーポジティブに向けた生態系保全の推進	■ 現場における野生動植物保護の取組みの推進 ■ 地域と連携した環境保全活動の推進
	循環型社会に向けた資源の有効利用の推進	■ 再資源化材料の利用拡大 ■ マテリアルフローの可視化と情報公開
	挑戦の機会と成長の実感を高める環境の整備	■ 新たな挑戦を促す制度の構築や人事交流などの拡大
	自律的キャリア形成を支える人的資本経営の推進	■ 研修やOJTなどを通じた体系的・継続的な人財育成 ■ 高度な専門性を有する人財の戦略的な育成
6 持続的成長を 支える経営基 盤の強化	心身の健やかさと充実感を高める ウェルビーイングの推進	■ 健康経営の推進 ■ 社員のライフスタイルに応じた多様で柔軟な働き方が できる環境の整備 ■ 働きがい高める職場環境の改善と コミュニケーションの強化
	誰もが活躍できるDE&Iの推進	■ 女性の更なる活躍推進 ■ 男性社員の育児参画促進に向けた環境の整備 ■ シニア層の活躍推進 ■ 障がい者雇用の促進
	DXの推進	
	革新的で高度な高速道路マネジメントの実現	■ 先進技術を活用した維持管理の高度化・効率化 ■ お客さまへ提供する情報の高品質化・多層化
	安全でスマートな施工現場の実現	■ ICT施工の推進 ■ BIM/CIMの推進 ■ 遠隔臨場など施工管理の効率化・高度化・省人化
	効率的で高付加価値な働き方の実現	■ デジタル化やデータ連携、AI活用などによる業務の 合理化・効率化 ■ 業務プロセスや役割分担の最適化
	技術開発の推進	■ 高速道路の機能強化やライフサイクルコストの低減に 資する技術開発
	コンプライアンスの推進と コーポレート・ガバナンスの強化	■ コンプライアンスの推進 ■ 適正な手続による公正・透明な調達 ■ リスクマネジメントの推進 ■ 人権方針に基づく取組みの推進 ■ 情報セキュリティの継続強化
	ステークホルダーとの連携強化によるプレゼンスの向上	■ 社会に向けた的確な情報発信 ■ お客さまの期待を形にする施策の推進
	財務基盤の強化	■ 既存事業の更なる成長と新規事業の展開 ■ 債務の着実な返済 ■ 適切かつ効率的な事業マネジメント ■ 事業を着実に行うための安定的な資金調達

達成目標

経営方針	項目	内 容	2025年度実績	2030年度目標
2 安全・安心で利便性・快適性の高い 高速道路空間の提供	① 健全性の診断区分Ⅲの構造物の措置完了率	5年以内に措置が必要な健全性診断区分Ⅲ評価の構造物について、補修等措置の100%完了をめざします。	100%	100%
	② 快適走行路面率	快適な走行路面を95%以上に維持し続けます。	96%	95%
	③ 通行止時間（災害・悪天候）	災害・悪天候による通行止め時間を15時間以下に抑えます。	10時間 (営業延長 1kmあたり)	15時間 (営業延長 1kmあたり)
	④ 死傷事故率	死傷事故率をさらに1割程度低減させ、3.8件/億台km以下の達成をめざします。 (億台km…1万台の車が1万km走行した場合を示す単位)	4.2件/億台km	3.8件/億台km
	⑤ 逆走重大事故件数	逆走重大(人身)事故件数0件の達成をめざします。	4件	0件
	⑥ 渋滞損失時間	交通集中・事故等による渋滞損失時間を1,368万台・時間以下に抑えます。	1,368万台・時間 (暦年)	1,368万台・時間 (暦年)
	⑦ ETC専用化整備率	ETC専用化を推進し、整備率81%の達成をめざします。	32%	81%
	⑧ 休憩施設の混雑対策実施率	大型車駐車マス飽和度が100%を超えているSA・PAにおける混雑対策を推進し、 対策実施率46%の達成をめざします。	17%	46%
3 お客さまや地域、社会の課題に応える 新たな価値創造	⑨ 企画割引販売件数	企画割引販売件数24万5,000件の達成をめざします。	20万7,000件	24万5,000件
	⑩ インフラソリューション売上高	インフラソリューション売上高100億円の達成をめざします。	61億円	100億円
4 脱炭素化をはじめとする環境保全への貢献	⑪ グループの事業活動により排出されるCO ₂ 削減率(2013年度比)	グループの事業活動により排出されるCO ₂ 排出量を、2013年度を基準として50%以上削減します。	10%	50%
	⑫ 低炭素材料(低炭素アスファルト)の年間導入率	低炭素材料(低炭素アスファルト)の年間導入率6%の達成をめざします。 (国土交通省における道路全体の低炭素アスファルトの合材出荷率目標6%)	—	6%
5 エンゲージメントの向上	⑬ 働きがいに関するグループ社員意識調査値	働きがいに関するグループ社員意識調査値3.78点(5点満点)の達成をめざします。	3.68点	3.78点
	⑭ 男性育児休業取得率(2週間以上)	男性育児休業取得率(2週間以上)を85%以上に維持し続けます。	85%	85%
6 持続的成長を支える経営基盤の強化	⑮ 総合顧客満足度	総合顧客満足度を3.8点(5点満点) 以上に維持し続けます。	3.7点	3.8点
	⑯ SA・PA事業連結営業利益	SA・PA事業連結営業利益57億円の達成をめざします。	63億円	57億円